

学校としゃかん 小学3・4年生におすすめの本 2020.9②

わたしのもみじ

岩間 史朗 (写真・文) 出版社:ポプラ社

ある日、カメラマンの岩間史朗(いわましろ)さんが一本の大きなもみじの木と出会いました。そのあまりの美しさに、ことばがみつからないほどでした。

岩間さんは、10年間もみじの写真をとりつづけました。春夏秋冬、うつりかわるもみじの木の姿(すがた)…。岩間さんが語る「わたしのもみじ」のおはなしに耳をかたむけてみませんか？



まくらのせんになん さんぽみちの巻

かがくい ひろし(作・絵) 出版社:佼成出版社

まくらの姿(すがた)をした「まくらのせんになんさま」がある日、お供(とも)の しき布団(ぶとん)の「しきさん」かけ布団の「かけさん」と三人で散歩(さんぽ)に出かけると寒さでふるえている木がいました。そこで、「まくらのせんになんさま」と「しきさん」「かけさん」は…。心が暖(あたた)かくなるおはなしです。「まくらのせんになん」シリーズ第2弾(だん)の「そのあなたの巻」も おすすめです。

まいごのどんぐり

松成 真理子(作) 出版社:童心社

ぼくは どんぐり。コウくんのどんぐりです。ぼくのおしりには「ケーキ」と書いてあります。コウくんがつけてくれた ぼくの名前です。コウくんのカバンの中は、どんぐりでいっぱい。今日もコウくんは どんぐりひろいに夢中(むちゅう)です。そんな時、ぼくは ぎゅうぎゅうづめのカバンの中から うっかり 落ちてしまいました。ぼくはコウくと また会えるのかな？

一つの花

今西 祐行(作) 出版社:ポプラ社

戦争(せんそう)が はげしかったころのおはなしです。そのころは、食べるものといえば「おいも」や「まめ」や「かぼちゃ」しかありませんでした。幼(おさな)い ゆみ子の口ぐせは「一つだけ、ちょうだい」でした。そう言うと ゆみ子のお母さんは、自分の分から一つ分けてくれたからです。「この子は、一生、みんなちょうだい、山ほどちょうだいといって両手をだすことを知らずにすごすかもしれないね…。」とお父さんは溜息(ためいき)をつきました。そのお父さんが戦争に行くことになってしまい…。